

～ご予約方法～



◎受診を希望される方

月～金曜日の14:00～16:00にお電話ください。

◎特にお急ぎの場合

月～土曜日の午前11:00までに予約なしで受診してください。

(担当医が不在の場合があるため、できるだけお電話でご確認ください)

◎電話番号 049-228-3674 (産婦人科外来)

◎初診時はカウンセリング料として6,600円(税込み)をいただきます。

～妊孕性温存外来の流れ～



*心理士とのカウンセリング

お気持ちを尊重しながら現況を聴かせて頂き、妊孕性温存に関する情報提供を行います。治療に関する理解や意向の整理につなげ、意思決定をサポートします。

*薬剤師とのカウンセリング

現在の治療や今後の治療について伺い、放射線や薬剤による生殖機能への影響に関して調査を行い、説明します。事前に治療内容が分かる場合は、予約時にお伝えください。



*医師によるカウンセリングと診察

がん治療医と密接な連携をとって、妊孕性温存が可能かどうかを慎重に検討し、説明します。妊孕性温存にあたっては、安全性に最大限配慮し、できる限り短期間かつ低侵襲で実施しています。



※心理士や薬剤師のカウンセリングがない場合もあります。

埼玉医科大学総合医療センター
産婦人科

妊孕性温存外来

妊孕性温存療法とは、

がん治療を優先することを前提に、がん患者さんが
将来子供をもつことを応援する治療です。

がん治療(化学療法・放射線療法・手術療法)によって
女性では卵巣、男性では精巣の機能が低下し、
将来子供をもつことが難しくなる可能性があります。
卵子・精子・受精卵・卵巣をあらかじめ凍結保存することで
治療後に妊娠できる可能性を高めることができます。



● 女性の妊孕性温存療法 ●

【受精卵（胚）凍結】

排卵誘発剤を約2週間程度使用し、卵巣を刺激します。卵巣内で卵子を育てた後、膣から卵巣を針で刺して、採卵をします。採取できた卵子を体外受精・顕微授精により人工的に授精させ、得られた受精卵（胚）を凍結保存します。パートナーがいる方に推奨される方法です。

【（未受精）卵子凍結】

未受精の状態で卵子を凍結します。卵子採取までの流れは、受精卵凍結保存と同じですが、採卵後に受精させず凍結保存をするため、パートナーがいない方や当日パートナーの精子が確保できない場合に推奨される方法です。

【卵巣組織凍結】

がん治療開始を急ぐ方や初経前の方、がん治療で卵巣機能に影響を及ぼす可能性がある方に検討される方法です。

卵巣凍結は、腹腔鏡手術にて、卵巣（通常は片方）を採取し、液体窒素内に保存しておきます。がん治療後、必要になったときに手術で移植します。数日の入院が必要な治療です。

● 男性の妊孕性温存療法 ●

【精子凍結】

マスターベーションにより射出精液から精子を採取し、液体窒素中に凍結する方法です。思春期以降（精通後）の方が対象となります。

【精巣内精子採取法（TESE）】（当院では行っておりません※）

精子を精巣内から手術的に直接回収する方法です。

陰嚢内の精巣を切開し、精細管組織より精子を採取します。

精子の数が少ない場合（無精子症）や造精機能が低下している場合、マスターベーションによる精液採取が不可能な場合に行います。

【精巣組織凍結保存】（当院では行っておりません※）

精子形成開始前の段階で、手術により精巣を摘出し、凍結保存する方法です。現在は、研究段階の治療です。

※埼玉県内では、獨協医科大学埼玉医療センターで行われています。



動画でみる妊孕性温存療法（女性編）



動画でみる妊孕性温存療法（男性編）

